

大和川の外水・内水対策の推進

1. 外水対策（ながす対策）

- ・大和川流域整備計画に基づき、大和川本川はS57豪雨対応(1/30相当)、支川は計画規模1/10で、河道掘削、樹木伐採などを推進
- ・直轄遊水地は、川西町保田地区、安堵町窪田地区の早期完成、**他残り3地区での早期に用地買収、切れ目のない工事推進**

2. 内水対策（ためる対策）

令和元年台風19号被害に鑑み、昨年12月より奈良県平成緊急内水対策事業※について、想定を超える豪雨(1/100)に**グレードアップ**した貯留施設整備をキックオフ

※ **事業主体は市町**とし、各市町の意向を踏まえ、**国費を除いた半分を県が支援**して貯留施設等を整備

<外水対策:葛城川(大和高田市)における堆積土砂の除去状況>

対策前



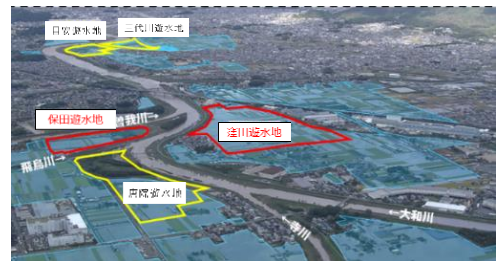
対策後



<外水対策:直轄遊水池 位置図>



<平成29年10月 内水はん濫の状況>



①R2年度工事箇所 ②今後工事予定箇所

<内水対策:グレードアップ対策案>

Level1 掘り下げ

貯留施設の池底を掘り下げて容量を拡大

Level2 拡幅

貯留施設の池幅を拡張して容量を拡大

Level3 新設

新たな適地に貯留施設を整備して容量を拡大

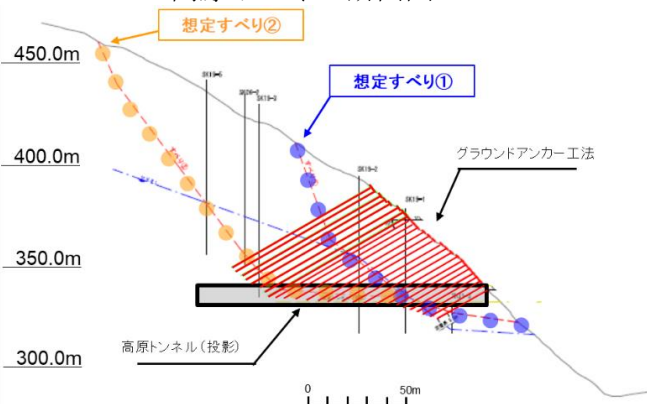
国道169号高原トンネルの地すべり対策

大規模かつ複雑な地すべり対策工事の推進



- ・ 災害復旧事業を早期に採択して頂き、感謝
- ・ 対策には高度な技術力を要するため、令和2年度より国による施工着手
⇒ **地すべり対策工事の着実な実施**

＜高原トンネル断面図＞



＜高原トンネル内クラック状況＞



※応急対策後、令和元年4月17日より通行止めを暫定的に解除中。現在も地すべりによる通行止めの可能性が継続。

中長期的な観点からの下水道経営

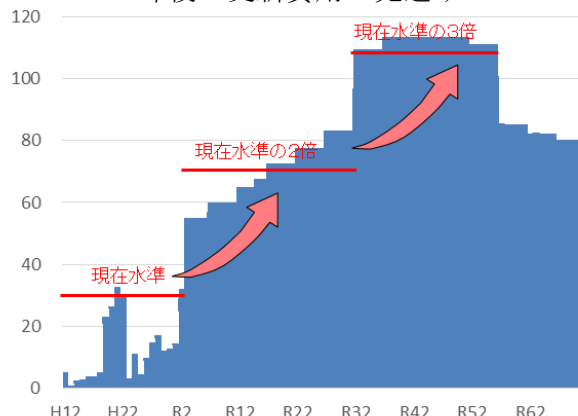
下水道経営基盤の強化

人口減少に伴う需要低下、老朽化に伴う更新費用の増大(令和3年度以降、現在水準の2～3倍の投資が想定)への対応が必要

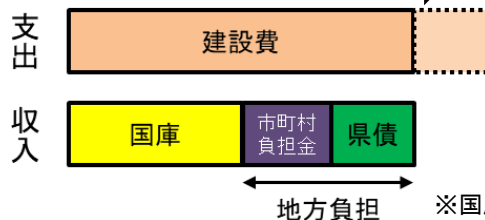


- ・ 近年、国庫補助金を高い水準で確保いただき、感謝
(要望措置率 R1:0.97 R2:0.92)
- ・ 今後の更新費用増大に伴う地方負担の増加が懸念
⇒ **更新需要の増大に対応する社会資本整備総合交付金の所要額の確保**

＜今後の更新費用の見込み＞



今後増加



※国庫補助率
処理場施設: 2/3
管路: 1/2

目標耐用年数(標準耐用年数[※]×1.5倍)での更新を想定

※標準耐用年数・・・機械・電気設備: 平均約18.3年
土木・建築施設: 平均約31.4年
管路施設 : 平均約50.0年

国にお願いすること

災害に屈しない国土づくりに向け、令和2年度で期限を迎える「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」について、事業を充実の上、延長し、**必要・十分な予算を確保**